

マクロシードペレットを利用した簡易草地改良技術

従来の放牧地における草地造成は短期間に牧草地化し高収量を得てきたが、機械作業が可能な条件にするためには、コスト高、環境破壊など課題がある。成形複合肥料の表面に牧草種子を糊付けしたマクロシードペレットは、不耕起で野草地などに牧草を定着することが可能であり、新しい低コスト草地改良法として期待される。



写真1 マクロシードペレットの発芽状況

前植生が低灌木とササの場合、低灌木を刈払い、マクロシードペレットをは種する。

は種後は放牧地と輪換し、前植生を抑えるため強めに放牧することによって、利用2年目から牧草の収量が増加し各草種とも牧養力が向上する。追肥は利用3年目以降からで十分である。

マクロシードペレットを野草地に不耕起で播くと、低肥沃土壌条件でも野草の特性を活用した草地改良ができる。

野草を有効に活用した混生草地、岩の多い野草地の草生改良、林地の林床植生の改良に有効である。

は種時期は8月上（高標高地）～下旬

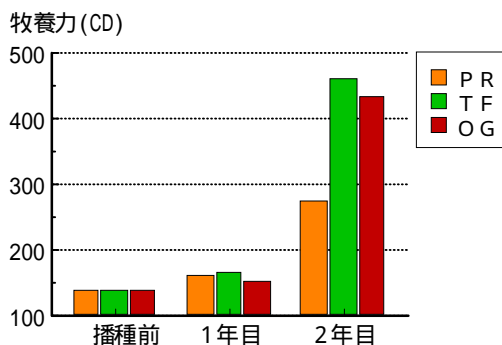


図1 混生草地造成地の牧養力の推移

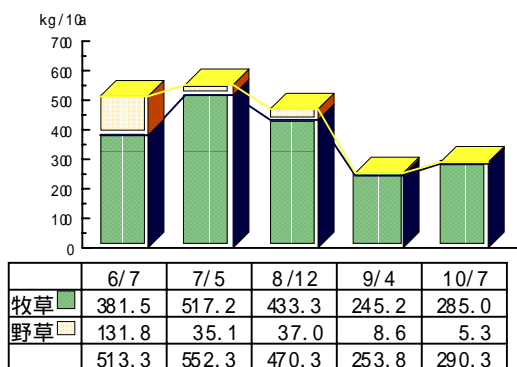


図2 岩場の多い里山造成地の生草収量推移

沢や岩場が多く立地条件の悪い土地を利用するためには、前植生を一部刈払いマクロシードペレットをは種することで、牧草地に改良できる。

このことにより、公共牧場入牧前の早春や退牧後の晩秋でも放牧への利用が可能となる。